



響きあるまちづくり!

～熊野吹奏楽団～



昨年12月18日、町民会館で熊野吹奏楽団の第24回定期演奏会が行われました。会場に詰めかけた満員の聴衆は、壮大でパワフルな演奏に酔いれました。

今回は、「くますい」の愛称で親しまれている熊野吹奏楽団・楽長の長野広幸さんにお話を伺いました。



なかのひろゆき
▲楽長の長野広幸さん

Q 熊野吹奏楽団の紹介をお願いします。

A 1995年4月に当時の社会教育委員の方から「熊野町に吹奏楽団を」という呼びかけで、町内の中学校吹奏楽部の卒業生を中心に結成しました。現在20人の楽員が町民会館を拠点に活動しています。

Q 活動内容を詳しく教えてください。

A 主催公演として、毎年7月にファミリーコンサート、12月に定期演奏会を行っています。ファミリーコンサートでは、地元中学校の吹奏楽部にも出演いただいています。

町民文化祭、筆まつり等のイベントや保育園、小学校等での音楽鑑賞会、高齢者施設での慰問演奏なども行っています。

Q 課題や悩み事などはありますか。

A 週2日の練習日を設けていますが、社会人や学生など現役世代のため、仕事や学業との両立が大変です。また、演奏会や練習会場の使用料高騰が楽団の運営を圧迫しています。活動が縮小しないか心配です。

Q どんな時に喜びや、やりがいを感じますか。

A 演奏を聴いてくださっている時の聴衆の目が輝いていたり、演奏後の大きな拍手やお声掛けに

つも励まされています。高齢者施設で演奏した翌日、入所者の方が亡くなり、施設やご遺族の方から「最期にとても楽しんで目を輝かせていた」とお言葉をいただいたこともあります。「一期一会」を大切にとの思いを強くしています。



Q 今後の活動などを教えてください。

A 都市部に行かないとスポーツや文化活動ができない、鑑賞できないという現状は、地域の衰退につながります。今後も熊野町に根を張った活動を

行い、住民の皆様文化に触れる機会を作り続けたいと思います。

また、公立中学校の休日部活動を民間のクラブや指導者へ委ねる地域移行が始まろうとしています。地域移行に伴う活動の衰退が心配です。私達にできる支援があれば考えていきたいです。

Q 町や議会への要望はありますか。

A 文化芸術がある場には人が集まり、地域に活力が生まれます。質の高い周辺市町の施設に発表会や大型公演が流出しないよう、町には頑張っしてほしいと思います。

また、施設使用料を引き上げるときには、私たち利用者の声も聴いてほしいと思います。

今日はありがとうございました。

取材／中島数宜

光本一也